

守山の「ホタル」の魅力を探る

取材に協力してくれた皆さん



環境政策課
村井 柊斗さん

ほたるの森資料館
副館長 加村 賢勇さん

ほたるの森資料館
研究部長 並河 聡さん



①

モリヤマジュニアリポーターは守山の魅力について、テーマの検討から現地でのインタビュー、写真撮影、執筆まで行い、小学生リポーター独自の目線で紹介するコーナーです。

①⑦ホタルの赤ちゃんを顕微鏡で観察 ②名刺の交換 ③～⑥施設の見学と生き物のエサやり ⑧ウッドデッキで生き物の観察とコンテナの掃除 ⑨～⑪ホタルの天敵ザリガニ釣り ⑫～⑮資料館とホタルについて学ぶ ⑯～⑰ホタルの人工河川を見学 ⑱インタビュータイム

守山市民のふるさとへの愛着と誇りを醸成してきたゲンジボタル。ホタル復活の拠点として親しまれてきたほたるの森資料館（指定管理・認定NPO法人びわこ豊稗の郷）を取材しました。

市街地を飛翔するゲンジボタルは、本市のふるさとづくりと環境保全活動の象徴です。本市は古くからゲンジボタルの群生地として知られていましたが、高度成長期の開発と水質悪化などで姿が見られなくなり、長い歳月と市民たちの努力を経て復活してきました。

ほたるの森資料館は、ゲンジボタル復活のふるさと創生を目指す拠点施設として、平成2年に開設されました。

ほたるの森資料館では、ホタルの飼育室、カワニナの飼育設備などがあり、ゲンジボタルの飼育、研究を中心に自然に親しむ学習活動の指導などを行っています。野

外には旧野洲川から移植された木々やホタルが棲む環境に配慮した人工河川があります。

開設から35年が経過して老朽化が進んだほたるの森資料館は、令和10年に新しい施設に生まれ変わる予定です。新しい施設の完成に向け、施設に込められた願いや使命も受け継ぐ次世代のモリヤマジュニアリポーターが取材しました。

施設の見学やホタルの幼虫観察、外来のザリガニ釣りなど、さまざまな体験を通して、飼育の苦労や守山とゲンジボタルの深いつながり、市民のホタル復活への強い思いなどを学びました。



③

②

④

⑥

⑤

⑧

⑦

⑪

⑩

人々に支えられて復活したホタル

ほたるの森資料館にたくさんいました。

今の環境があるのは、いろいろな取り組みがあったからです。ホタルは昭和35年ごろ、絶滅したといえるほど数が減りました。しかし、南喜市郎さんの研究の成功がホタルを救うもとなり、ホタルの復活のために市民も団結して「守山ほたる条例」ができたから、現在のホタルがいます。

人々が努力して守ってきた大切なホタルを、これからも大切に守っていきましょう。

若菜 史歩



ほたるの森資料館とホタルのつながり

ほたるの森資料館では、ホタルを守るための活動をしています。ホタルの生きている環境の細かな部分に気を配り、記録を残し、成長を見届けています。

その「ほたるの森資料館」は、ホタルを通じて自然環境を考える場所として、人とホタルが幸せにくらせるまちづくりを目指して、令和10年度に新しく生まれ変わります。

ほたるの森資料館の人やたくさんの方の協力により、ゲンジボタルの淡い光が飛び交う守山を歩くのが楽しみです。

河畑 杏音



ホタルの食べ物

ホタルの幼虫の食べ物は、カワニナというまき貝です。そのカワニナにはふたがあり、開いているときに食べています。ホタルは殻の中にある身の部分にはりをさし、まずい薬のようなものと消化液を出して、ストローのように飲んでいきます。また、ホタルはほとんどカワニナしか食べません。なぜかというと、カワニナもホタルと同じくらいの時期に生まれ育っていくので、カワニナの大きさがちょうどよく食べやすいからです。

永井 佐和



⑱

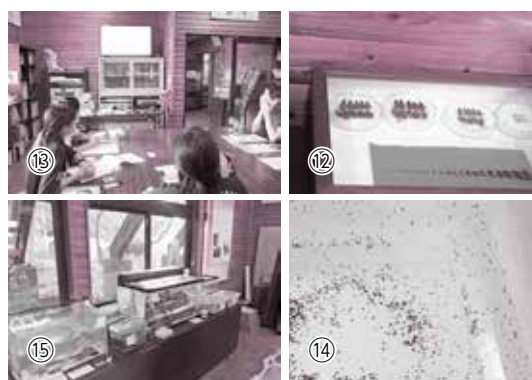


⑬



⑯

⑰



⑮

⑫

⑭